

学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（法学）」を授与する。

- [国際政治学科]
- グローバル時代に活躍するのに必要な国際政治学の領域を超えた幅広い教養と学識を獲得している。
  - 専門科目を履修することにより、地球規模問題群やアジア地域の諸問題に対する観察力と分析力、さらには積極的に行動する地球市民意識を有している。
  - 専門科目の中の実践講座科目等を履修することにより、実践的な英語力を含む語学力と異文化理解力を習得している。
  - 演習や選択科目である卒業論文、リサーチペーパー等によって、構想力・独創性・主体性・コミュニケーション能力を備えている。

(凡例)  
 ◎=当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを特に強く推奨する科目。  
 ○=当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを強く推奨する科目。  
 △=当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することが望ましい科目。  
 無=当該DPの示す学習成果を達成するために、余裕があれば履修することが望ましい科目。

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
必修科目	国際政治への案内	BSP100AD	1～4	国際政治学科新入生を対象とした必修科目です。国際政治学科で国際政治についての授業を担当する教員全員が1人2回ずつ講義を行います。受講生が、国際政治のさまざまな側面についての基礎的な知識や見方を身につけることがこの授業の目的です。2年生になったら、どの教員のゼミに所属して、国際政治のどの側面についての勉強に力を入れるかの判断材料を国際政治学科の1年生に提供することも目的としています。今年度は更に、図書館のご協力を得て文献検索等の学習ガイダンス・実践も行われる予定です。	受講生が、国際政治学科で国際政治についての授業を担当する教員の研究テーマを理解し、国際政治についての幅広い知識を身につけることが目標です。講義を担当する教員は、自分が専門とする研究テーマだけでなく、その周辺の関連事項についてもできるだけ幅広く話をしますので、この授業を履修すれば、国際政治についての幅広い知識を身につけることができます。深い穴を掘るためには、まずは掘り口を広くしなければなりません。受講生一人一人が、自分に合った掘り口を作ることを、この授業は目指します。そして掘り口の中から、在学期間を通じて、自分が特に深く掘り下げたいと思う分野や研究テーマを、受講生一人一人に見つけてもらうことも目指します。	◎	◎	◎	◎
	Intensive English	BSP100AD	1～4	This is an upper-level Intensive English course.	This course aims to help students take their English skills to a higher level by focusing on a range of topical global political issues. In the early stages of the course, students will analyse a specific topic under close supervision. As the course proceeds, depth and breadth of study will be expanded so as to require students to carry out individualized assignments, which will further refine their organizational, analytical and communication skills.	◎	◎	◎	◎
	国際政治学入門	POL100AD	1～4	本講義は、初学者の受講を念頭に置いた国際政治学の入門講座である。その目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。この目的を達成すべく、複雑さを増してやまない国際関係を理解したり説明したりするために国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野でこれまで生み出されてきた基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイム）ないしリサーチ・プログラムを紹介する。	国際政治学ないし国際関係論における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。 国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。 現実の国際事象を、基本概念や分析枠組みを使って理解し、説明できる初歩的な能力を修得する。	○	◎	○	○
	戦後国際関係史	POL100AD	1～4	本科目は、第二次世界大戦後から現在に至るまでの国際関係を学ぶ授業です。冷戦前半（冷戦の勃発から激化）、冷戦後半（緊張緩和から「新冷戦」へ）、冷戦終結後という3つの時期について、異なる地域を専門とする4人の教員が順番に講義を行い、国際関係の歴史を多面的に説明します。この授業を通じて、受講生は、国際問題を様々な角度から理解する力を身につけることを目指します。	(1) 現代の国際問題の起源にどのような歴史的背景があるのかを説明できる (2) 国際関係の重要な事件について、異なる立場から多角的に論じることができる	○	◎	○	○
	国際政治学特講 I	POL100AD	1～4	経済開発や社会開発と政治体制との関係についてのさまざまな学説を紹介することによって、開発と援助の問題に関する理解を深めることを目的とします。この授業では、個別の国の実態よりも、理論的な考察に重点を置きます。	経済発展における非市場メカニズムの重要性についての理解を深め、経済開発や社会開発と政治的変化の関係についての理解を深めることを目指します。それによって、開発や援助について自分なりの考えを持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
	国際政治学特講 II	POL100AD	1～4	世界各地のポピュリズムを比較して考察します。ポピュリズムとは何か、ポピュリズムにはどのような問題点があるのか、先進国と中進国のポピュリズムにはどのような違いがあるのか、ポピュリズムはどのような条件下で強まり、どのような条件下で弱まるのかについて、受講生が理解を深めることを目的とします。	(1) 世界各地のポピュリズムの多様なあり方についての基礎知識を獲得する。(2) ポピュリズムに対する多様な見方を知り、ポピュリズムの何が問題で、何が問題でないのか、反ポピュリズムの言説にはどのようなものがあり、反ポピュリズムの側にはどのような問題があるのかについての理解を深める。(3) ポピュリズムについての政治学的な分析に触れることによって、社会的な考察方法の利点と限界についての理解も深める。	○	◎	○	○
	ユーラシアの民族と政治 I	POL100AD	1～4	この授業では、旧ソ連から中国を含むユーラシア地域の民族問題について学ぶ。本学は特に、旧ソ連地域に焦点をあてる。授業を通じて、当該地域の民族問題についての基礎的な理解を養うことを目的とする。	この授業を通じて、旧ソ連地域の民族問題についての基礎的な理解を養い、今後同地域に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来現地への赴任など現地と関わる機会を想定し、地域の概要を説明できるようにすることを目標とする。	○	◎	○	○
	ユーラシアの民族と政治 II	POL100AD	1～4	この授業では、旧ソ連から中国を含むユーラシア地域の民族問題について学ぶ。本学は特に、中国に焦点をあてる。授業を通じて、当該地域の民族問題についての基礎的な理解を養うことを目的とする。	この授業を通じて、中国の民族問題についての基礎的な理解を養い、今後同地域に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来現地への赴任など現地と関わる機会を想定し、地域の概要を説明できるようにすることを目標とする。	○	◎	○	○
	アフリカの政治と社会 I	POL100AD	1～4	This course is a general introduction to students who are interested in the studies of Africa's society, culture, and politics. The course will provide an overview of Africa's historical, political, cultural, and societal development. The main themes to be explored in this course will include Africa's pre-colonial livelihoods, colonialism and imperialism, the post-colonial transformations, and Africa in the age of globalisation.	This course aims at exposing students to how Africa has been subjected to profound stereotypes and misconceptions that largely inform the global perspectives of the continent. The course will seek to humanize our understanding of Africa by emphasizing forms and means of daily life experiences and understandings such as family life, love and joy, the life cycle, faith and belief, livelihood aspirations, hopes for the future, development aims and achievements, and sense of global belonging. The overall aim is that students will gain experience of researching, discussing, and presenting global issues using a good command of English language with both clarity and confidence.	○	◎	○	○
	アフリカの政治と社会 II	POL100AD	1～4	This course is a general introduction to students who are interested in the studies of Africa's society, culture, and politics. The course will provide an overview of Africa's historical, political, cultural, and societal development. The main themes to be explored in this course will include Africa's pre-colonial livelihoods, colonialism and imperialism, the post-colonial transformations, and Africa in the age of globalisation.	This course aims at exposing students to how Africa has been subjected to profound stereotypes and misconceptions that largely inform the global perspectives of the continent. The course will seek to humanize our understanding of Africa by emphasizing forms and means of daily life experiences and understandings such as family life, love and joy, the life cycle, faith and belief, livelihood aspirations, hopes for the future, development aims and achievements, and sense of global belonging. The overall aim is that students will gain experience of researching, discussing, and presenting global issues using a good command of English language with both clarity and confidence.	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	Overseas Study Program	BSP100AD	1～4	春学期の土曜3・4限に行う事前研修と夏休み期間中にイギリスとフィリピンで集中的に行う英語研修を組み合わせた授業です。 受講生が自分の現在の英語力の水準を自覚するとともに、大学在学中に到達すべき英語力の水準を明確に認識し、少しでもそれに近づくように英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。	この授業を履修することによって、受講生が、英語でのコミュニケーションに慣れることが第1の目標です。この授業では、日本語を解さない外国人と英語でコミュニケーションせざるを得ない環境に受講生を置くことによって、英語を人前で話すことに対する抵抗感を低減させることをまず目指します。そして、ただ単にあたりさわりのない挨拶程度の英語を話すだけでなく、国際政治に関する自分の考えも英語で話せるようになることを第2の目標とします。 英語で、ある程度まとまった長さの発言をするためには、まず頭の中で日本語の文章を考え、それを英語に訳すというプロセスを経るのではなく、最初から英語で自分の考えを頭の中でまとめながら話さなければなりません。この授業では、受講生をそうせざるを得ない状況に置くことによって、英語で考え、英語で話せるようにすることを目指します。	◎	◎	◎	◎
	国際政治の理論と現実	POL100AD	2～4	本講義は、「国際政治学Ⅰ」の既修者を念頭に置いた、国際政治学の専門講座である。その目的は、複雑な国際事象を理解したり説明したりするのに必要な国際政治学に関する専門知識を体系的に修得することにある。(本講義は春学期に開講する予定だが、秋学期の「国際政治学Ⅰ」を履修してから受講されたい。2年次以降の履修が望ましい。) この目的を達成すべく、最新の国際情勢について解説し、各種のリサーチ・プログラムないしパラダイムで取り上げられてきた代表的な理論研究を紹介する。	現代の国際政治現象についての知識を身につけ、それを理解するための理論研究や理論的な分析枠組みを学び、体系的な専門知識を習得する。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ統合論Ⅰ	POL100AD	1～4	本講義は、ヨーロッパ統合の動きを国際関係史の視点で論じる。目的は、ヨーロッパ統合の史的展開を把握し、主権国家を中心とした世界のなかでのその異質性に関する理解を深めることである。	本講義の到達目標は、なぜ近代主権国家の概念が誕生したヨーロッパで今度はそれを超克しようとする運動が生じたのかを理解することである。そして、地域統合の中身が多様であり、現実と理想との相克とのなかで史的展開が行われたことを理解することである。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ統合論Ⅱ	POL100AD	1～4	本授業では、ヨーロッパ統合を体現している欧州連合(European Union, EU)を理解するとともに、現代ヨーロッパが抱えている問題をテーマとして扱う。現代ヨーロッパをとおして国際政治上の多くの問題への理解を深めることが目的である。	本授業の到達目標は、EUの機構、そしてその役割を理解し、地域統合の特徴に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○
	EUの政治と社会Ⅰ	POL100AD	1～4	本講義では、現代ヨーロッパを理解するため、EU(欧州連合)を取り上げる。特に、冷戦終結までの発展の歴史を考察し、ヨーロッパ統合がなぜ始まり、いかに発展してきたのか、また加盟国はその中でいかなる対応に迫られてきたのかを詳しく検討する。 現代世界は相互依存関係が進み、一国が全く独立した形で政策を実施することが困難になりつつある。国内の一政策も国際的な影響を受けるため、世界全体の大きな枠組みの中で考えざるを得ない。そうした現状の典型的な事例は、第二次世界大戦後のヨーロッパであろう。EUに見られるように、ヨーロッパ統合の動きが進み、様々な共通政策が行なわれ、従来の国際政治を大きく変えつつある。このヨーロッパの事例は今後の世界を考える上で極めて貴重な視点を提供してくれると思われる。	講義の到達目標としては、現代ヨーロッパに関して以下の2点をめざす。 (1) 分析、評価するための手法(特に、歴史的分析)を学ぶこと。 (2) 自分自身の意見を具体的根拠に基づいて展開できるようになること。	○	◎	○	○
	EUの政治と社会Ⅱ	POL100AD	1～4	本講義では、現代ヨーロッパを理解するため、EU(欧州連合)を取り上げる。特に、ポスト冷戦期のヨーロッパ統合の歴史を考察した後、EUの政策決定過程、EU内の政治力学などを詳しく検討する。それにより現代国際政治の中のヨーロッパについて現状を把握し、将来を展望したい。 現代世界は相互依存関係が進み、一国が全く独立した形で政策を実施することが困難になりつつある。国内の一政策も国際的な影響を受けるため、世界全体の大きな枠組みの中で考えざるを得ない。そうした現状の典型的な事例は、第二次世界大戦後のヨーロッパであろう。EUに見られるように、ヨーロッパ統合の動きが進み、様々な共通政策が行なわれ、従来の国際政治を大きく変えつつある。このヨーロッパの事例は今後の世界を考える上で極めて貴重な視点を提供してくれると思われる。	講義の到達目標としては、現代ヨーロッパに関して以下の2点をめざす。 (1) 分析、評価するための手法(特に、歴史的分析)を学ぶこと。 (2) 自分自身の意見を具体的根拠に基づいて展開できるようになること。	○	◎	○	○
	東欧の政治と社会Ⅰ	POL100AD	1～4	東欧地域の最新情勢を織り交ぜながら、歴史的背景を探り、現状把握に努める。本学は主として欧州統合に向けた源流をたどりながら、冷戦終結から4半世紀余りを経て未曾有の試練に直面するEUの問題点を東欧の視点から理解し、専門知識を身につける。	「もう一つの欧州」といわれる東欧の放つメッセージに耳を傾け、単なる知識にとどまらず、年代に刻まれた歴史事情への理解を目指す。	○	◎	○	○
	東欧の政治と社会Ⅱ	POL100AD	1～4	東欧地域の最新情勢を織り交ぜながら、歴史的背景を探り、現状把握に努める。本学は主として旧ユーゴスラビア内戦後の平和構築、および欧州統合を支える平和の理念や和解の精神を通して、東欧地域の課題を概観する。	欧州の一角にあるバルカン地域を含めた東欧の現状に目を向け、欧州の平和と安全にとっての意味合いについて理解することを旨とする。	○	◎	○	○
	旧ソ連諸国の政治と社会Ⅰ	POL100AD	1～4	20世紀末にソ連が崩壊したことによって、15の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。そこで、本講義では、比較政治学の理論的観点から旧ソ連諸国の政治を比較検討する。講義ではまず比較政治学の理論的研究を紹介し、その理論で旧ソ連諸国の政治がどう捉えられることができるのか(できないのか)を考える。	1. 比較政治学の理論的研究の基礎を理解できる。 2. 理論的研究に基づいて、旧ソ連諸国の政治を理解できる。 3. 理論的見地から、旧ソ連諸国の特殊性と他地域との共通点を説明できる。	○	◎	○	○
	旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ	POL100AD	1～4	20世紀末にソ連が崩壊したことによって、15の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。本講義では、ソ連崩壊後のロシア政治を中心に扱う。前期と同様に、比較政治学の理論的見地から検討することで、ロシアはどのような特殊性を持つのか、日本や他の地域の国々との共通点はないのかを考える。	1. 比較政治学の理論的研究の基礎を理解できる。 2. 理論的研究に基づいて、ロシア政治を理解できる。 3. 理論的見地から、ロシアの特殊性と他地域との共通点を説明できる。	○	◎	○	○
	ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ	POL100AD	1～4	本授業では、現代ラテンアメリカ諸国における民主化をテーマに講義を進めることで専門知識の体系的学習を行う。具体的な事例の解説を進めるに先立ち、歴史的経緯、地域における政治的アクターの特徴、体制分類の定義などの分析枠組みについての解説を通して、ラテンアメリカの政治と社会の特色について理解を深める。	ラテンアメリカで生起する様々な政治社会現象を、自ら理解し解説することが出来る能力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	○
	ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ	POL100AD	1～4	本授業では、現代ラテンアメリカ諸国における民主化をテーマに講義を進めることで専門知識の体系的学習を行う。地域の歴史的経緯、政治的アクターの特徴、体制分類の定義といった分析枠組みなどを手がかりに、ラテンアメリカの政治と社会の特色について理解を深める。	ラテンアメリカで生起する様々な政治社会現象を、自ら理解し解説することが出来る能力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	○
	中東の政治と社会	POL100AD	1～4	第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の専門的知識を習得することを目標とする。	学生は以下のことが可能になります。 中東地域の政治、経済、歴史、宗教に関する知識の習得。 中東地域と他の地域の関係についての理解。 国際政治学や比較政治に関する知識の習得。	○	◎	○	○
	グローバル・ガバナンス	POL100AD	1～4	グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、国際的に合意された定義もないため、その概念をめぐっては未だ議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野だけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に活用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実証研究の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスの「分野」、ガバナンスに参加する「アクター(市民社会や企業などの非国家主体等)」、ガバナンスの「手段」に注目する。そして、グローバル・ガバナンスの有用性について考える。	・理論と実証の両方において、グローバル・ガバナンスに関する基本的な知識を身に付けることができる。 ・グローバル・ガバナンスの有用性について自分なりの考えをもてるようになる。	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	国際協力論 I	POL100AD	1～4	中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権の誕生に象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争やテロの続発と難民問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだしていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、国際開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。 こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。 本講義ではまず、途上国問題や国際開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を確実に習得することを旨とする。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを旨とする。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。	まず、途上国問題および国際開発援助についての基礎知識を幅広く習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、いわゆる開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また国際開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとじて、どのような方法で対処しようとしているのか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何かを理由とするか、その理由を説明することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。 次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。	○	◎	○	○
	国際協力論 II	POL100AD	1～4	中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権の誕生に象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争やテロの続発と難民問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだしていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、国際開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。 こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。 本講義では、途上国や国際開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを旨とする。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。	本講義では、毎回ひとつのテーマについて議論することを通じて、「国際協力論 I」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。 なお、受講生の希望により、議論するテーマを変更する可能性がある。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。	○	◎	○	○
	国際公共政策 I	POL100AD	1～4	本授業では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策」をテーマに、国際公共政策について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力の養成を図ることを目的とする。	国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その結果をレポートにまとめることができる。	○	◎	○	○
	国際公共政策 II	POL100AD	1～4	本科目は、「日本の国際行政・国際公共政策」をテーマとする国際行政論 II への乗り入れ科目であり、国際行政・国際公共政策について以下の諸項目で記載した要領で学んでいく。それにより、行政・政策など関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力を養成することを目的とする。	国際行政・国際公共政策について、特に日本に焦点を当てて様々な見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その結果をレポートにまとめることができるようになることが到達目標である。	○	◎	○	○
	国際社会の法 I	POL100AD	1～4	国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。	1 国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。 2 メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。	○	◎	○	○
	国際社会の法 II	POL100AD	1～4	国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。	1 国際人権法の基本的概念を理解します。 2 国際社会における人権の価値や意義について考えます。	○	◎	○	○
	市民社会の法 I	POL100AD	1～4	民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。 民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。	契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識、および、法的な思考方法を身につけること。	○	◎	○	○
	市民社会の法 II	POL100AD	1～4	主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには現代社会における民法の役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。	民法総則の基本的知識・考え方を理解するとともに、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につける。	○	◎	○	○
実践 講座 科目	International Politics	POL200AD	2～4	本科目は、国際政治学実践講座科目群の英語専門科目であり、グローバル・オープン科目である。ゼミに準じた形式で進行する。 今年度のテーマは、「戦略と政策 (strategy and policy)」とする。国際政治を単に現象として理解するのではなく、現在進行中の国際政治の諸問題について、受講生が2～3人の少人数グループを組んで、その原因を分析し、実際にどのような行動を起こして対処すべきなのかという具体的な提言を作成することによって、「問題解決能力」を育成するトレーニングするとともに、そこで取り上げる最先端の国際政治問題についての知識を身につける。	本科目の到達目標は、次の三つである。 第一に、社会に出てから実務を処理していく際に必要となる「問題解決能力」を、国際政治という材料を使って養成する。ここには、物事を分析して原因を仮説的に特定する方法論や、その仮説に基づいて具体的な戦略や政策ないしアクション・プランなどを立案する能力や、そうした戦略や政策を実行するうえで何が問題となりうるかを理解する能力が含まれる。 第二に、フォーマルなプレゼンテーションを効果的に実施する技術など、各種の実務的な基本スキルを身につける。 第三に、上記二つの目標を追求する中で、今日展開しつつある国際情勢に関する知識を身につけ、理解を深める。	◎	○	◎	○
	国際政治ワークショップ	POL100AD	1	本科目は、サマーセッション期間（2021年8月2～6日）に短期集中で行われる入門レベルの基礎科目で、国際政治学科1年生による履修を強く推奨します。 現代の国際政治上の問題をテーマとして、講義とグループワークを組み合わせた授業を行い、最終日に各グループによるプレゼンテーションを実施します。今日の国際政治についての基本的な知識を身につけるとともに、国際政治学科の1年生同士が学業を通じてつながりを作り上げることが本科目の目的です。	この授業を通じて受講生は、国際社会が抱える問題について調べ、その解決策を探る能力を身につけます。また、他の受講生とコミュニケーションをとり、聞き手を意識しながら、自分の考えをわかりやすく他者に伝える能力を身につけることを目指します。	◎	◎	○	◎
	プレゼンテーション	POL200AD	2～4	この授業は「プレゼンテーションを知る事」そして「効果的なプレゼンテーションを行う方法を知り実習すること」を行います。 プレゼンテーションに必要な要素を、わかりやすく初歩の部分から行っていきます。授業の流れは「座学」と「実習」を繰り返していきます。  自身の伝えたいことをわかりやすく効果的に伝える構成法、発声及び身体の使い方を学び、聞き手の感情を動かせるプレゼンテーションの習得を目指します。	1. プレゼンテーションの苦手意識克服 2. ポイントを理解し、意識的に効果的なプレゼンテーションを行う努力ができる 3. 聞き手の心を動かし、行動に結びつけるプレゼンテーションができるようになる  知らない道を地図もなく進んだら誰でも不安になるものです。同じように具体的な方法を知らないプレゼンテーションは、地図を持たずに知らない道を歩くようなもの。つまり苦手で当たり前なのです。 何をすればいいか、どうすればいいかを学ぶことで「苦手意識を克服できる」さらに技術を知り「効果的なプレゼンテーションができる」 効果的なプレゼンテーションのやり方を磨き「心を動かし行動に結びつける」プレゼンテーションができるようになる」授業ではこの3つを目指します。	◎	○	◎	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	Negotiation and Mediation Communication Skills	POL200AD	2～4	The course will develop the participants' English negotiation and mediation skills through consideration and practice of key principles of successful negotiation.	Students will learn about different approaches to negotiation in various contexts, both personal and professional. They will consider the negotiation process and learn and practice useful vocabulary and functional language for negotiation. Students will apply the knowledge and skills in three different scenarios in the latter half of the course. It is hoped that the skills acquired during the course will be useful and relevant to students' future personal and professional lives.	◎	○	◎	○
	Global Governance	POL200AD	2～4	Global governance is the theme of this course. The students will first learn about the basic elements of global governance, including its meaning and key actors/institutions, and will then learn about issues related to global governance, including how it has evolved in this changing and globalized world.	Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance issues that have been evolving with the changing situation of the world. This includes various pieces of global governance, the main actors and their roles and interaction in global governance, and how global governance influences political, economic, social, and other affairs.	◎	○	◎	○
	Japanese Politics	POL200AD	2～4	This course explores the nature of Japanese democracy and examines key issues in society and foreign relations in contemporary Japan. The topics to be discussed include: the evolution of a distinctly Japanese brand of democracy since WWII, the legacy of the U.S. occupation, the consolidation of the "1955 system", party politics, the political role of women, the political and economic upheavals during the "lost decade" of the 1990s, as well as major issues in Japan's defense policy and foreign relations in East Asia. Particular attention will also be given to the current government's policies and ongoing political developments.	The goal of this course is to equip students with a basic knowledge of the core features of the Japanese political system, as well as to enable them to understand the nature of current news and events in Japan's politics and international relations. This course also aims to help students build their analytic and critical thinking skills. By the end of the semester, students are expected to improve their understanding of a variety of political challenges facing Japanese society today.	◎	○	◎	○
	Essay Writing	POL200AD	2～4	The course will develop the participants' English writing, listening, vocabulary and discussion skills through consideration of various issues related to current affairs.	This course will focus on the essay-writing process from the initial stages of gathering information and note-taking, to the organization of an essay, and the final stage of proof-reading for content and accuracy. The course will give students practice in these skills, and will require the students to apply the skills in order to produce a problems-solution paragraph and discussion essay.	◎	○	◎	○
	Presentation Skills	POL200AD	2～4	The course will develop the participants' English presentation skills by considering three factors: the role of the presenter, presentation language, and visual aids.	By the end of the course, participants will be able to analyse and evaluate English language presentations, and understand how to deliver successful presentations in English.	◎	○	◎	○
	Debate	POL200AD	2～4	This is an undergraduate Debate course.	This course aims to help students to practice fluency, exchange opinions and enhance critical thinking skills through the medium of debate. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.	◎	○	◎	○
	Global Internship	POL200AD	2～4	国際政治学科科目の中で「実践講座科目」の分野に属する科目であり、受講生は、原則として、海外で5日間以上の期間、インターンとして活動することが求められます。授業では、海外でのインターン期間を有意義かつ安全に過ごすために必要なスキルの習得と、インターン先の選定、インターン期間中の活動計画の作成を行うとともに、海外でのインターン終了後は、インターンとしての活動経験から学んだことについてのプレゼンテーションを行ってもらうとともに、日本語以外の言語で、インターン報告書を作成・提出してもらいます。海外でのインターンを体験することによって、受講生が実体験を通じて、グローバルな見方を体得することがこの授業の目的です。	海外でのインターンシップを通じて、日本語以外の言語で業務を行い、海外でも的確な状況判断ができ、問題解決能力を発揮できるようになることを目標とします。具体的には、日本語以外の言語で業務報告書を作成したり、インターン先の団体が置かれている状況や直面している課題を的確に判断する能力と、インターン先の団体やその周囲の人たちと十分な意思疎通ができる異文化コミュニケーション能力を習得することを目指します。	◎	◎	◎	○
	文章の書き方セミナー	POL200AD	2～3	文献のない事象や現在進行中の問題について、自分で調べて、取材し、問題の所在を明らかにして、それを文章として表現する能力を養う。	インタビュー、映画鑑賞、裁判傍聴、自らの企画立案による取材などを通じて、資料収集と文章作成の基本を身につける。特に、問題点を把握し、わかりやすく、読みやすい文章をまとめることができるように、一度書いた文章を添削してから、再度書き直す過程を組み込んでいる。これによって、学生が平均より上位レベルの文章作成技術を得られ、ジャーナリスト志望者のみならず、通常の論文執筆や、エントリーシートなど就職試験の文章作成にも生かせる能力を養う。	◎	○	◎	○
	海外メディア分析実習	POL200AD	2～4	This course aims to expand student's existing global political awareness and enhance their language skills so that they can better formulate and communicate their ideas in the field of Global Politics. The spoken and written activities have the general goal of helping students to develop both their critical thinking skills and their self-expression so that they become more confident in discussing the major concepts and themes of Global Politics. The major theme for this course is media analysis.	The course will focus on building academic level skills by encouraging students to consider a variety of issues in the field of Global Politics through the study of comparative media. Students will develop critical thinking skills through readings, small group discussions, presentations and essays.	◎	○	◎	○
総合講座科目	外交総合講座	POL200AD	1～4	This course is designed for beginners who are interested in the contemporary Japanese foreign policy. After overviewing characteristics of Japan's domestic policies and political behaviors for understanding political decisions that modern Japan has made, students are provided with basic information Japan's past, present and future interactions with major counterparts in the international community. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives and through diverse paradigmatic lenses.	・Students are expected to have a general understanding of the characteristics of Japan's domestic policies and political behaviors. ・Students are expected to gain wider perspective about the Japanese bilateral and multilateral foreign policy. ・Students are expected to form their own ideas towards the Japanese foreign policy.	◎	◎	○	◎
	国際協力講座	POL200AD	1～4	本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。	この授業は国際社会の平和と安定および持続可能な開発を推進するための日本政府や各国政府、国際機関、市民社会団体、民間企業、メディアなどを含むアクターによる協力・協調における様々な役割と活動について理解を深める。また、国際社会でのアクター同士の対話や連携を通じての国際協力活動についても学ぶ。	◎	◎	○	◎
アジア国際政治コース科目	アジア国際政治概論	POL300AD	1～4	東アジアの国際関係の構図について、外交・安全保障を中心に、歴史や経済を踏まえつつ、考えていきます。とくに日本を含む各国のナショナリズムに焦点をあてます。東アジアには不信と対立の構図が根深く残っています。それはなぜか、どうしたら不信は解けるかを考えていきましょう。	21世紀の東アジアの国際関係の現状を理解するため、その歴史的背景と構造を押さえること。戦前の大日本帝国の戦争とその崩壊、戦後の冷戦期、21世紀の米国と中国の協調と対立を軸に、日本と米国、日本と中国、日本と南北朝鮮、日本と東南アジアという関係を、それぞれの固有の文脈をふまえて理解すること。	○	◎	○	○
	朝鮮半島の政治と社会 I	POL300AD	1～4	本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。	朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	朝鮮半島の政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。	朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。	○	◎	○	○
	台湾の政治と社会Ⅰ	POL300AD	1～4	1945年から現在に至るまで台湾は「中華民国政府」の実効支配下にある。1950年代から80年代に至るまでその統治は「権威主義体制」(リンズ)であった。この台湾における権威主義体制の在り方を解き明かすことを目指す。	台湾という政治社会の在り方を、「権威主義体制」という角度から明らかにする。同時に世界各地に存在した、また存在する「権威主義体制」を理解していく足掛かりを見い出す。	○	◎	○	○
	台湾の政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	台湾における「権威主義体制」が1980年代から90年代にかけて「民主化」していく過程を明らかにする。そして、「ボリアーキー」としての民主主義が定着していく過程も射程にいれる。	台湾における民主化過程を明らかにするとともに、世界各地における民主化とその定着の過程を明らかにする足掛かりとする。	○	◎	○	○
	中国の政治と社会Ⅰ	POL300AD	1～4	今や中国を語らずして世界を語ることはできない。本授業は、「世界の工場」から「世界の市場」と称されるまでにその国際的プレゼンスを高めた中国に関し、そのガバナンス構造の特性を政治的側面のみならず、社会経済的側面にも広げ、多様な検討を行うことで国際政治学の基礎知識の習得を目指す。受講者が現代中国に関する専門的理解を得て、中国を含む国際政治の動向への自らの判断を形成、提示できるように現実とのダイアローグを重視する。	本授業では、中国政治の現状および将来像に関し、受講者自身が何らかの展望を自己イメージとして獲得することを到達目標とする。具体的には、現代中国に関する報道に接した際、その背景、意味等を把握し、且つそれに対する自らの判断を提示できることを目指す。	○	◎	○	○
	中国の政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	今や中国を語らずして世界を語ることはできない。本授業は、「世界の工場」から「世界の市場」と称されるまでにその国際的プレゼンスを高めた中国に関し、そのガバナンス構造の特性を政治的側面のみならず、社会経済的側面にも広げ、多様な検討を行うことで国際政治学の基礎知識の習得を目指す。受講者が現代中国に関する専門的理解を得て、中国を含む国際政治の動向への自らの判断を形成、提示できるように現実とのダイアローグを重視する。	本授業では、中国政治の現状および将来像に関し、受講者自身が何らかの展望を自己イメージし得ることを到達目標とする。	○	◎	○	○
	東南アジアの政治と社会Ⅰ	POL300AD	1～4	東南アジアの国々のうち、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシアの4か国を取り上げ、これらの国々の政治経済状況について解説します。受講者が、これらの国々の政治経済状況についての基本的な知識を身につけるとともに、それらの知識に基づいて、東南アジアの国々と日本との関係や東南アジアの今後のあり方について自分なりの考えをもてるようになることを目的とします。	東南アジアは日本と非常に深い関係の深い地域であり、数多くの日本人が企業の駐在員として滞っているほか、毎年数百万人の日本人観光客が訪問しています。この授業では、受講者が、東南アジア諸国のうち、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシアの4か国について、その政治経済状況について体系的に理解することを目標とします。これら4か国の政治経済状況の相違点や共通点について基本的な知識を習得し、さらにはそうした特徴をこれらの国々が有するようになった理由や今後これらの国々がどのように変化していくかについて自分なりの考えを受講者が持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
	東南アジアの政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	東南アジアの国々のうち、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの3か国を取り上げ、これらの国々の政治経済状況について解説します。受講者が、これらの国々の政治経済状況についての基本的な知識を身につけるとともに、東南アジアの国々と日本との関係や東南アジアの今後のあり方について自分なりの考えをもてるようになることを目的とします。	受講者が、東南アジア諸国のうち、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの3か国について、その政治経済状況について体系的に理解することを目標とします。これら3か国の政治経済状況の相違点や共通点について基本的な知識を習得し、さらにはそうした特徴をこれらの国々が有するようになった理由や今後これらの国々がどのように変化していくかについて自分なりの考えを受講者が持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
	オセアニアの政治と社会Ⅰ	POL300AD	1～4	オセアニアと聞くと、オーストラリア、ニュージーランドを思い浮かべる人が多い。しかしオセアニアの国や地域の大半を占めるのは狭小な島嶼である。またこれら島嶼がその生存を依存している太平洋は、地球総面積の1/3、全海洋面積の半分を占めて、地球の生態系にとって大きな存在である。日本も太平洋に依存する島の一つとして、これら島嶼と同じ立場にあるにもかかわらず、それを忘れがちである。 日本はまた、オセアニアの島嶼と歴史的にも深い関係をもってきた。例えば、戦前日本はミクロネシアの一部を南洋群島として約30年間統治し、戦後日本の反核運動の基点となったビキニ事件は、旧南洋群島の一部の島嶼であった。 一方、オセアニアの島嶼の人々は日本に注目している。それは経済大国、技術大国として援助を求めたい対象としてだけではない。例えば、冷戦体制下で核兵器の実験地となり被害に苦しむ人々は、東日本大震災での福島第一原発事故以後の日本に深い関心を寄せ、日本の原発再稼働反対を強く求めるアピールを出した。内部被曝、故郷からの離散、家族の離別、政府の情報非公開等の問題は、核実験で犠牲を強いられた島の人々が今なお解決に取り組む問題だからだ。 この核被害に象徴されるように、オセアニアの島嶼には、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に表れ、また極小国であるゆえに、島嶼による諸問題への取り組みが、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、問題解決の手掛かりを示している。 本授業では上記の内容を、これら地域と深くかかわってきた日本という立場から理解し、考えるため、人々のオセアニア島嶼への到達から第一次世界大戦までを対象とする。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。	①オセアニア特に島嶼を中心に、現在の政治と社会の特徴、これら地域が抱える問題(自立と依存、環境問題、核実験と放射能汚染、伝統的共同体と市民社会、民族問題、移民問題など)を理解する。 ②国際関係の歴史や国際関係に関する基本的な概念、地域から国際関係を捉える方法を、オセアニアの島嶼へのアプローチから学ぶ。 ③オセアニアとの関係から日本の近現代史を捉えおし、現代世界、太平洋の一員としての日本の立場性、役割を考える。	○	◎	○	○
	オセアニアの政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	オセアニアと聞くと、オーストラリア、ニュージーランドを思い浮かべる人が多い。しかしオセアニアの国や地域の大半を占めるのは狭小な島嶼である。またこれら島嶼がその生存を依存している太平洋は、地球総面積の1/3、全海洋面積の半分を占めて、地球の生態系にとって大きな存在である。日本も太平洋に依存する島の一つとして、これら島嶼と同じ立場にあるにもかかわらず、それを忘れがちである。 日本はまた、オセアニアの島嶼と歴史的にも深い関係をもってきた。例えば、戦前日本はミクロネシアの一部を南洋群島として約30年間統治し、戦後日本の反核運動の基点となったビキニ事件は、旧南洋群島の一部の島嶼であった。 一方、オセアニアの島嶼の人々は日本に注目している。それは経済大国、技術大国として援助を求めたい対象としてだけではない。例えば、冷戦体制下で核兵器の実験地となり被害に苦しむ人々は、東日本大震災での福島第一原発事故以後の日本に深い関心を寄せ、日本の原発再稼働反対を強く求めるアピールを出した。内部被曝、故郷からの離散、家族の離別、政府の情報非公開等の問題は、核実験で犠牲を強いられた島の人々が今なお解決に取り組む問題だからだ。 この核被害に象徴されるように、オセアニアの島嶼には、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に表れ、また極小国であるゆえに、島嶼による諸問題への取り組みが、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、問題解決の手掛かりを示している。本授業では上記の内容を、これら地域と深くかかわってきた日本という立場から理解し、考えるため、第一次世界大戦後から現在までを対象とする。「オセアニアの政治と社会Ⅰ」に続く授業内容となる。	①オセアニア特に島嶼を中心に、現在の政治と社会の特徴、これら地域が抱える問題(自立と依存、環境問題、核実験と放射能汚染、伝統的共同体と市民社会、民族問題、移民問題など)を理解する。 ②国際関係の歴史や国際関係に関する基本的な概念、地域から国際関係を捉える方法を、オセアニアの島嶼へのアプローチから学ぶ。 ③オセアニアとの関係から日本の近現代史を捉えおし、現代世界、太平洋の一員としての日本の立場性、役割を考える。	○	◎	○	○
	北アメリカの政治と社会	POL300AD	1～4	アメリカの政治や社会について理解することが目的です。 アメリカ社会を構成する一般の人びとの行動や思考の背後にある理念・慣習・伝統などを考察し、集団と個人とがどのような関係をもってアメリカ社会を形成しているのかを明らかにします。	本年度は、アメリカ合衆国について、前半は、アメリカの各地域(セクション)の特徴について紹介し、後半では、多民族社会の実態とその統合という観点から考察します。 「アメリカとは何か」という問いを考えるうえで必要になると思われる「補助線」を習得することをめざします。	○	◎	○	○
	日本の政治と社会Ⅰ	POL300AD	1～4	本授業では、1940年代から1960年代までの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、敗戦から復興、政党政治の始動、55年体制の成立、天皇制と日本社会、大衆運動の高揚、高度経済成長と日本社会の変容、アメリカ統治下の沖縄社会などを詳しく検討し、戦後システムの形成を考察する。	1940年代から1960年代までの日本の政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	日本の政治と社会Ⅱ	POL300AD	1～4	本授業では、1970年代から現在に至るまでの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、55年体制の崩壊と日本政治の流動化、低成長時代の政治と社会、日本政治の保守化、自民党政治の持続と変容、3・11と日本社会、人口減少と日本社会、沖縄と本土の溝などを詳しく検討し、戦後システムのゆらぎを考察する。	1970年代から現代までの政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。	○	◎	○	○
	アメリカ政治外交史	POL300AD	2～4	アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。	次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。	○	◎	○	○
	現代のアメリカと世界	POL300AD	2～4	第二次世界大戦以降のアメリカの対外関与に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。	・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できるようになる。 ・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多面的なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できるようになる。	○	◎	○	○
	中国の政治と外交Ⅰ	POL300AD	1～4	本授業では、近現代中国の政治外交史を学び、基礎知識を付けた上で、現在の中国外交における種々の論点について、現実との対話（ダイアログ）を行うことを目指す。国際社会においても存在感を増す中国の外交について理解することで、アジア国際政治学やグローバルガバナンス全体についての専門知識がより深まることも期待される。	近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるようになる。	○	◎	○	○
	中国の政治と外交Ⅱ	POL300AD	1～4	本授業では、近現代中国の政治外交史を学び、基礎知識を付けた上で、現在の中国外交における種々の論点について、現実との対話（ダイアログ）を行うことを目指す。国際社会においても存在感を増す中国の外交について理解することで、アジア国際政治学やグローバルガバナンス全体についての専門知識がより深まることも期待される。	近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるようになることを目標とする。	○	◎	○	○
	ロシアの政治と外交Ⅰ	POL300AD	1～4	本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討する。前期の授業では、ロシア帝国末期からソ連崩壊に至るまでの時期を扱う。ソ連とロシアの外交政策がどのような変遷を辿ってきたかを理解するだけでなく、(超) 大国であるソ連・ロシアの外交が国際社会にどのような影響を与えたのかを理解することが、この講義の目的である。	1. ソ連がどのような国際環境を持ち、その中でどのような外交政策を行ってきたか、20世紀を通じたソ連・ロシア外交の変遷を説明できる。 2. ソ連・ロシア外交の変遷が、国際社会のあり方に対しどのような影響を及ぼしてきたかを理解し、国際社会の中のソ連・ロシアの立場の変遷を説明できる。	○	◎	○	○
	ロシアの政治と外交Ⅱ	POL300AD	1～4	本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討する。後期の授業では、ソ連崩壊後のロシア外交がどのように展開してきたかを考える。また、後半は、ウクライナ危機や日露関係の歴史といった具体的事例を扱う。ソ連崩壊後に国力低下した時期を経て、ロシアが再び国際社会でいかに存在感を強めていったのか、そして現在ロシアは国際社会においてどのような立場にあるかを理解することが本講義の目的である。	1. 冷戦後の新たな国際環境の中で、ロシア外交がどのように変化してきたかを説明できる。 2. ウクライナ危機はなぜ起きたのか、ウクライナ国内の要因と国際的要因の双方から説明できる。 3. 北方領土問題はなぜ未だ解決していないのか、冷戦や日本の国内政治との関係を踏まえて説明できる。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ政治外交史Ⅰ	POL300AD	1～4	本講義では、ウィーン体制に至るまでの近代ヨーロッパの国際政治史について学ぶ。現代世界に根付いている「主権国家」、「外交」などの概念はヨーロッパにその誕生の起源がある。つまり、ヨーロッパについて学ぶということは、ヨーロッパのみならず、日本を含む世界各地の国際政治史の一端を学ぶことにもつながるのだ。この点に本講義の意義がある。国際政治史の主役は国家であるが、その国家は人間によって構成されている。そうした人間のなかでも、主に政治と外交の分野で政策を立案し、決定を下す政治エリートに焦点をあてて講義を実施する。	到達目標は「勢力均衡」や「ヨーロッパ協調」という政治学上の概念を理解したうえで、該当する時代の歴史に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ政治外交史Ⅱ	POL300AD	1～4	本講義では、ウィーン体制下の国際秩序とその動揺を皮切りに、現代に至るまでのヨーロッパ国際政治史について学ぶ。ヨーロッパの大国が域外に勢力を拡張することで、そのヨーロッパの様々な制度や慣習がアメリカ、アジア、あるいはアフリカに普及した時代を扱う。それは各地に新たな大国が出現したことで、圧倒的なパワーを誇ってきたヨーロッパ列強の相対的な地位が低下した時代でもあった。革命、総力戦、冷戦、あるいは地域統合を経たヨーロッパの変遷を追っていくことで、各時代の状況を把握することを旨とする。	本講義の到達目標は、ヨーロッパの歴史を鳥瞰し、国際秩序の構築と崩壊が繰り返された経緯に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○
	日本の政治と外交Ⅰ	POL300AD	1～4	本授業では、1945年から1970年代前半までの日本政治の流れを概観した上で、その特質と構造を多角的に考察してみたい。とりわけ、議会制民主主義と日本政治を中心的なテーマに据え、戦後日本政治の問題点と課題を検討し、現実とのダイアログも行ってみたい。また、外交に関しては、対ソ連外交、対韓国外交、対中国外交に焦点をあて、現在の日ロ、日韓、日中関係を考えるための素材を提供したい。	1945年から1970年代前半までの日本政治の流れと特質を説明できる。	○	◎	○	○
	日本の政治と外交Ⅱ	POL300AD	1～4	本授業では、1970年代から現代までの日本政治の流れを概観した上で、その特質と構造を多角的に考察してみたい。とりわけ、自民党政治の変容や政権交代を中心的なテーマに据え、戦後日本政治の問題点と課題を検討し、現実とのダイアログも行ってみたい。また、外交に関しては、湾岸戦争・イラク戦争への対応、対中国外交、対韓国外交、対ロシア外交に焦点をあて、現代日本外交の特質と問題点を考えてみたい。	1970年代から現代までの日本政治の流れと特質を説明できる。	○	◎	○	○
	アジア比較政治論Ⅰ	POL300AD	1～4	本授業では、東アジアにおける多様な近代化や政治発展のあり方を体系的に理解する。そのうえで、アジア国際政治の歴史とも絡めながら、東アジア各国の政治体制の特徴についての専門知識を深める。さらに、各国の政治体制に関する知識を現実と対話（ダイアログ）させ、東アジア各国や地域において生じている現代の諸問題について議論を行う。	比較政治学の分析概念や枠組みを用いて、東アジア各国の近代化や政治発展の特徴を分析できるようになる。また、各国の政治体制の特徴を理解した上で、各国の国内や諸国家間の関係において生じている諸問題について、構造的な説明をすることができるようになる。	○	◎	○	○
	アジア比較政治論Ⅱ	POL300AD	1～4	本授業では、まず比較政治学に関する基礎知識を共有し、東アジアにおける多様な近代化や政治発展のあり方を体系的に理解する。そのうえで、アジア国際政治の歴史とも絡めながら、東アジア各国の政治体制の特徴についての専門知識を深める。さらに、各国の政治体制に関する知識を現実と対話（ダイアログ）させ、東アジア各国や地域において生じている現代の諸問題について議論を行う。	比較政治学の基本的な考え方を身につけ、東アジアにおける開発主義と民主化、あるいは権威主義体制の継続について学ぶ。同時に、現在の東アジアにおける近代化や政治発展のあり方の多様性について理解する。そのうえで、東アジア各国・地域の内政や対外関係において生じている諸問題について、構造的な説明をすることができるようになる。	○	◎	○	○
グローバルガバナンス コース 科目	国際機構論Ⅰ	POL300AD	1～4	グローバル化が進展する中で、国連を含む国際機構が、今日世界が抱える地球規模問題にいかに対処していくか、そしてその可能性とともに直面する課題について理論と実践例から検討する。  In this course on international organizations, the students will learn about the different roles and activities that various international organizations undertake to tackle key global issues. Within the context of an increasingly globalized world with many diverse players becoming more actively engaged in global issues, the course will examine the evolving role of the United Nations and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The course will cover theory and practice by reviewing the activities of various UN agencies. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by international organizations and also to work in/international organizations.	この講義では、時代と共に変化してきた国際機構、特に国連の役割と機能を把握し、21世紀の諸問題に対してのその活動を理解することを目標とする。また、世界情勢の複雑化や国家、市民社会、民間企業などのアクターの役割が多様化していることを踏まえ、これらアクターとの関係や連携のあり方、およびグローバル・ガバナンスにおいて国連が果たしている役割についても理解することを目標とする。	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	国際機構論 II	POL300AD	1～4	<p>春学期の国際機構論 I に続き、グローバル化が進展する中で、国連を含む国際機構が、今日世界が抱える地球規模問題にいかに対処していくか、その可能性と直面する課題について理論と実践例から検討する。</p> <p>In this course on International Organizations II (following the course International Organizations I in the spring semester), the students will learn about the different roles and activities that various international organizations undertake to tackle key global issues. Within the context of an increasingly globalized world with many diverse players becoming more actively engaged in global issues, the course will examine the evolving role of the United Nations and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The course will cover theory and practice by reviewing the activities of various UN agencies. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by international organizations and also to work with/in international organizations.</p>	この講義では、時代と共に変化してきた国際機構、特に国連の役割と機能を把握し、21世紀の諸問題に対してのその活動を理解することを目標とする。また、世界情勢の複雑化や国家、市民社会、民間企業などのアクターの役割が多様化していることを踏まえ、これらアクターとの関係や連携のあり方、およびグローバル・ガバナンスにおいて国連が果たしている役割についても理解することを目標とする。	○	◎	○	○
	平和・軍事研究 I	POL300AD	1～4	<p>世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同時に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全な軍事的な判断能力が求められる。</p> <p>この科目は軍事というレンズで世界を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るための」必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことについて現実とのダイアログを行い、考えなければならぬ。平和を理想だけに求めず、武力万能論に走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。</p>	平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪論的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。	○	◎	○	○
	平和・軍事研究 II	POL300AD	1～4	<p>授業の前半は、戦争を防止し平和管理を保障するために先人たちが考え出した様々な平和方策について綿密な検討を行う。授業の後半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析を行ったうえで、日本をめぐる東アジアの軍事情勢の分析を行う。これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。</p>	平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪論的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。	○	◎	○	○
	国際NGO論 I	POL300AD	1～4	<p>飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になってきています。</p> <p>NGOの援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このようなNGOの開発理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。</p>	(1) 地球規模課題に取り組むNGOの特徴と課題を理解する。 (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。	○	◎	○	○
	国際NGO論 II	POL300AD	1～4	<p>飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になってきています。</p> <p>NGOの援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このようなNGOの開発理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。</p>	(1) 地球規模課題に取り組むNGOの特徴と課題を理解する。 (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。	○	◎	○	○
	国際文化交流 I	POL300AD	1～4	<p>授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をしたうえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際文化関係の基盤となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が不正であるのか、何が問題であるのかを考える。</p> <p>授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。</p>	国家と文化の関係を、特に国際関係のなかで理解すること。また、国際関係に文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が不正なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。	○	◎	○	○
	国際文化交流 II	POL300AD	1～4	<p>授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。</p> <p>授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。</p>	日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。	○	◎	○	○
	地球環境論 I	POL300AD	2～4	<p>自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 II では、世界各国で発生している自然環境破壊の現状について理解を深めると共に、そうした現状に対する国際的な取り組み事例を学び、今後日本及び国際社会が、どのようにして人間と自然とが共存できる社会を構築していくべきなのか、考究することを目的とします。</p>	主に以下の3点について理解を深め、自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。 ①世界各国において発生している自然環境破壊の現状と問題の構造 ②各国における自然環境保全のための具体的な取り組みとアプローチ ③今後、日本及び国際社会が、人間と自然とが共存できる社会を構築していくためにできること・すべきこと	○	◎	○	○
	地球環境論 II	POL300AD	2～4	<p>環境問題は人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。</p>	以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。 ・人口増加のパターンと要因 ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策 ・気候変動をめぐる社会 ・越境大気汚染の原因と対策 ・中国の資源と環境 ・環境国際協力	○	◎	○	○
	国際経済論 I	POL300AD	1～4	<p>春学期の講義である国際経済論 I は国際貿易論の基本を学習する。</p>	国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。	○	◎	○	○
	国際経済論 II	POL300AD	1～4	<p>本講義では、国際金融の基本を学ぶことを通じて、ニュースや新聞で目にする世界で起きている様々な現象や問題を正しく理解し、分析する能力を養うことを目的とする。</p>	国際金融論を学ぶことを通じて、世界経済の中でのお金の動きや、国際収支表の見方、為替市場の仕組みや、為替レートがどのように決定されるのか、などの仕組みを理解し、分析できる能力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	○
	グローバル・ビジネス論 I	POL300AD	1～4	<p>それぞれの地域や社会は独自の歴史的な発展を遂げているが、産業革命以降は生産のみならず人々の暮らし方や考えなど多方面に激しい変化をもたらしている。そうした変化はグローバルに影響を与えながらスピード・アップをあげている。一例はスマート・フォンの登場から10年間でグローバルな変化であろう。産業社会の変化を多角的に捉えてグローバルな思考を養う</p>	グローバル化は歴史的な産物であり、同時に多様な社会科学を生み出したともいえる。欧米やアジアにおいて社会が大きく転換し、利害の対立や衝突を回避しつつ相互理解や相互依存が広がっていくことが望ましいが他方で簡単には達成できない困難な現実がある。社会科学の基礎的な視点を整理し、グローバルな変化を再確認しつつスキルアップへのベース作りとすることを到達目標としている	○	◎	○	○

分類	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	グローバル・ビジネス論Ⅱ	POL300AD	1～4	産業革命以降の多方面での変化は20世紀に入り変化のスピードを高めているといえる。東西冷戦構造の終焉に伴い、地政学から地経学が目ざされ、中進国から先進国においては知識型経済社会や社会のサービス化の現象が広がっている。こうした変化をとらえつつ政治経済を含む広義のビジネスにおけるグローバルなインパクトを多角的に考察する	社会科学の進歩や発展は社会の発展形態と相関関係があるといえるかもしれない。他方で産業社会の変化は個人のスキルアップを後押しし、変化に対応することを求めているともいえる。グローバルな変化の構造を理解しながら社会科学の基礎的な視点を整理し、グローバルな変化を再確認しつつグローバルな志向性を高めてスキルアップのベース作りをすることを到達目標としている	○	◎	○	○
	国際経済法Ⅰ	POL300AD	1～4	国際ビジネスが如何なる法的枠組で行われているのかを学習する。商社法務実務の経験から国際取引法もカバーし、実際のビジネス現場で起きていることを重点的に学ぶ。	受講者が将来国際ビジネスの現場で活躍する際のバックグラウンドとして、国際ビジネスの法的枠組や法的諸問題について、基礎をマスターする。	○	◎	○	○
	国際経済法Ⅱ	POL300AD	1～4	国際ビジネスの当事者はどのような法的問題に直面・対応しているのかを学習する。商社法務実務の経験から、国際取引法もカバーし、実際のビジネス現場で起きていることを重点的に学び、現実とのダイアログを行う。	受講者が将来国際ビジネスの現場で活躍する際のバックグラウンドとして、国際ビジネス推進上の法的諸問題（コンプライアンスの側面）について、基礎をマスターする。	○	◎	○	○
	国際環境法Ⅰ	POL300AD	2～4	国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。	国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。	○	◎	○	○
	国際環境法Ⅱ	POL300AD	2～4	今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車環境対策、有害物質対策などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。	環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。	○	◎	○	○
	国際政治経済学Ⅰ	POL300AD	1～4	近年におけるグローバリゼーション論の高まりが、国際政治経済学（IPE: International Political Economy）への関心を一層強めている。グローバリゼーションの波は、人々をローカルからグローバルな領域に引き放つ一方で、世界各地のローカルな文化的アイデンティティの復興を促し、一国内に、あるいは国境を越えて新たな経済的文化的領域を作り出すなど大きなうねりとなっている。そして、この複合的な現象は、経済、政治、社会、技術、文化等に正負両面の影響を及ぼしている。IPEは、これらの現象を理解するために有効な視点である。この講義では、政治と経済の相互作用に着目して、現代の国際社会が抱えるさまざまな問題について考察する。	（１）「政治と経済の相互作用」に着目して、国際政治経済学（IPE）の視点から国際社会を観察する眼をもてるようになる。 （２）国際社会が直面するさまざまな問題（グローバル・イシュー）について、「政治と経済の緊張関係」に注目して考えることができるようになる。	○	◎	○	○
	国際政治経済学Ⅱ	POL300AD	1～4	この講義では、国際政治経済学（IPE: International Political Economy）の視点から、現在の国際社会の争点について検討する。春学期開講の「国際政治経済学Ⅰ」ではIPEの理論と発展を中心に講義するが、本講義では、国際社会の争点、例えば、安全保障に関する問題、移民問題、経済発展と人権・民主化とのかわり、地球環境問題などの争点をIPEの視点から分析する。扱うテーマはどれも、グローバリゼーションの中で起きている「政治と経済の緊張関係」を孕む今日的かつ論争的なものばかりである。受講希望者は、IPEの基本的な考え方と視点を正しく理解しておくために、「国際政治経済学Ⅰ」を必ず受講しておくこと。	・「政治と経済の相互作用」に着目して、国際政治経済学（IPE）の視点から国際社会を見る眼を養うことができる。 ・「政治と経済の緊張関係」に注目して、現代のIPEで争点となっている事例を検討することによって、自ら関心をもつイシューを見つけていくことができる。 ・自らの関心事について調べ、アカデミック・レポートを作成できるようになる。	○	◎	○	○
	経済外交論Ⅰ	POL300AD	1～4	国際関係において政治・外交と経済とは不可分の関係にある。本講義は、第一次世界大戦以降の国際関係において経済要因が強く影響した事例を取り上げ、国際政治経済学的視点から20世紀史を展望する。具体的には、①第二次大戦勃発における経済要因（第一次世界大戦後の賠償問題、世界恐慌等）、②冷戦における経済要因（ブレトンウッズ体制の成立、米ソの体制間競争、ベトナム戦争、レーガノミクス等）、③グローバリゼーションの諸側面（脱植民地化と南北問題、資源ナショナリズム等）といったテーマを素材として議論する。	第一次世界大戦以降の外交課題における「政治」と「経済」との重層性・連関性を理解し、現代の国際関係を複眼的視点から理解する能力を身につける。	○	◎	○	○
	経済外交論Ⅱ	POL300AD	1～4	本講義では戦後日本外交の経済外交について考える。経済外交とは、自国の経済的利益を確保するための外交と、自国の経済力を用いて国家的利益や国際公益を実現するための外交という二つの側面を有する。敗戦国という立場から出発し、高度成長を経て経済大国となった日本は、戦後70年の間、いかなる経済外交を展開してきたのだろうか。この講義では、貿易、通貨、援助、地域主義の4つをテーマとして日本の経済外交史をたどり、その意義を考察する。	戦後日本外交における経済外交の展開とその意義を理解するとともに、現代の経済外交の諸課題を歴史的な脈に位置付けて俯瞰的に理解する能力を身につける。	○	◎	○	○
	現代イスラム世界論	POL300AD	1～4	世界の4人に1人がイスラム教徒の時代、イスラムを知らずして世界を語ることはできない。過激派の台頭と頻発するテロ、欧米諸国で広がるイスラム排斥の動き、イスラムの宗派対立など「イスラム」が世界のホットイシューとなっている。なぜ西欧社会とイスラム世界の対立が続くのか、共存は可能なのか。複雑化する国際情勢を理解するために不可欠な現代のイスラム世界の素顔と諸問題、西欧社会や日本との関係について見識を深め、国際政治を探究するための視野を広げる。	（１）過激派によるテロや移民・難民問題など世界を揺るがす様々な事象の背景と原因を探り、イスラム世界が内包する問題点を整理し、時事問題への理解度を高める。 （２）過激派の主張や行動とイスラムの教えは相反するものであること、欧米諸国のイスラムへの偏見や差別が摩擦の原因となっていることなどを知り、イスラムへの理解を深めるとともに正しい接し方を学ぶ。 （３）現代の国際政治の中でのイスラム世界の位置づけと影響力、将来について考察し、「文明の衝突」は避けられないか共存は可能なのか、多様性のある社会を形成するために必要なものは何か、議論を通じて自らの見解を発表する力を身につける。	○	◎	○	○
選択科目 (演習)	演習	POL300AD	1～4	国際政治学・国際政治等の様々な専門的テーマについて、少人数の演習（ゼミ）形式で学ぶ。	各演習ごとに多岐にわたるが、おおむね、国際政治学・国際政治等の様々な専門的テーマについての理解を深め、分析する思考力を身につけ、学習成果の発表・議論ができるようになること、また、読解力・語学力や文章作成能力を伸ばすこと、更に、将来の職業生活に向けたモチベーションを養うことなどが目標となる。	◎	◎	◎	◎